令和３年６月２日

京都府農林水産技術センター農林センター

トビイロウンカの飛来情報

農業技術情報（第２号）

昨年、東海地方以西を中心に多発生し、府内では1,010haで354tの減収被害[注1)]となったトビイロウンカですが、本年は梅雨入りが早く、早い時期から飛来に適した気象条件となっています。株元での増殖を見逃さないよう、ほ場での観察を行い、発生を認めた場合は適切に防除を行ってください。

[注1)] 令和2年産水稲の被害面積及び被害量：農水省統計

１　京都府に飛来した可能性がある日

気象データを用いて解析された大気の状態から、京都府に飛来をした可能性がある日[注2)]は、5月5、17、18、20、21、28、29、30日です（6月1日現在）。

[注2)] 気象予報データによる飛来予測（JPP-NET）より

２　飛来状況

（１）　大阪府、奈良県、徳島県や静岡県などで昨年よりも早い時期から本虫の誘殺が確認されています。

（２）　6月1日現在、府内3箇所（京田辺市、亀岡市、京丹後市）の予察灯では、本虫の誘殺を認めていません。なお、令和2年は京田辺市、亀岡市、京丹後市いずれも8月上旬に誘殺を認めています。

３　今後の対応

本虫の発生を認めた場合は、出穂期の基幹防除時にトビイロウンカに効果が高い薬剤を選択してください。

４ トビイロウンカの生態及び観察のポイント

（１）成虫の体長は3.5～5mm、光沢ある黄褐色ないし暗褐色の体色を呈します。

（２）日本では越冬せず、**梅雨の時期に**大陸からの強い風（下層ジェット気流）に乗って**日本に飛来**します。

（３）飛来虫がイネに産卵し、水田内の**狭い範囲で世代交代を繰り返して増殖**します。

（４）成虫には長翅型（羽の長い型、写真1）と短翅型（羽の短い型、写真2）があり、ほ場に**飛来する成虫はすべて長翅型**で、**その後の世代で増殖能力の高い短翅型が出現**します。

（５）トビイロウンカは通常1ヶ月弱で世代を繰り返すため、**急激に増殖し、坪枯れを生じさせる**ことがあります。特に、収穫期が遅い中晩生品種（ヒノヒカリ、京の輝き、祝、新羽二重糯）では、被害が拡大することがあるので発生状況に注意してください。

（６）トビイロウンカは局所的に発生する傾向があるため、ほ場全体をよく観察し、発生に十分注意してください。特に**株元に好んで寄生するので重点的に観察すること**が重要です。

（７）水田内で、**水が溜まりやすい、過繁茂で通風が悪い場所**があるときは、そこに生息している可能性が高いので、特に注意して観察してください。

（８）**低湿田、通風不良田、多肥田等では発生しやすい**ので、特に注意が必要です。

写真1 トビイロウンカ長翅型成虫

写真2 トビイロウンカ短翅型成虫